



神港学園
神港高等学校
進路指導部
キャリアアップ
サポート通信第1号
平成28年10月11日

体育大会も終わり、10月に入り、いよいよ中間考査が目前です。3年生は、推薦入試も迫ってきています。さて保護者の皆様やOB・OGの方々などによる神港学園生を応援するキャリアアップサポーター制度が、昨年発足しました。昨年度の生徒諸君による質問への回答は、通信にして配付した通りで、2～3年生の皆さんは覚えていると思います。またこれらは学校のホームページに掲載されています。今年度も1～2年生に、7月に質問を書きいただきました。昨年の質問と重複するものについては、質問された該当の生徒に、直接昨年の通信の内容をお渡ししています。

また新たな質問については、今回回答をいただきましたので、本通信に掲載させていただいて配付します。今回は小学校教諭の方への質問で、31名の生徒から質問をいただきました。

小学校の先生（教諭）について

Q1：小学校の先生になるにはどうしたらいいのですか。どこの大学に行けばいいのですか。どのようなルートをとるのですか。どんな勉強をすればよいのですか。

A1：教員免許という資格を取得することが必要です。教職課程とって、大学や短大、大学院に行き、教職に必要な勉強をして単位を取り、卒業と同時に教員免許状をもらうことができます。4年制大学・・・1種免許状 短期大学・・・2種免許状 大学院・・・専修免許状 教職課程を履修していない人であっても、「教員資格認定試験」に合格することができれば、2種免許状を取得することができます。

教員免許取得後、公立の場合には、各都道府県などで実施されている教員採用試験、私立の場合には、各小学校の教員採用試験を受験します。教員採用試験に合格することができれば、小学校教諭として働くことができます。

教員免許状を取得可能な大学、短期大学に入学し、法令で定められた科目及び単位を修得して卒業後、各都道府県教育委員会に教員免許状の授与申請を行うことが必要です。文部科学省ホームページ「教員免許状を取得可能な大学等」で確認することができます。

大学等の最終学年で、資格取得見込みで採用試験を受けられます。各都道府県が行う教員選考採用試験の実施時期や内容は県市によって様々です。

<スケジュール>

5～6月出願 7月第1次試験 8月第2次試験 10月合格発表

<内容>第1次試験

- 一般教養（人文・社会・自然科学など）や教職教養（教育法規・教育原理・教育心理など）
- 教科専門（小学校全科の指導内容や指導方法、専門知識及び能力について）
- 面接試験（個人面接、集団面接、集団討論など）

第2次試験

- 筆記試験・・・小論文、○面接試験・・・個人面接、集団面接、集団討論、模擬授業など
- 実技試験・・・体育、音楽、美術、英会話など

このような採用試験を乗り切るためには、幅広い分野の知識と学力、面接での受け答えや集団での討論、実技（ピアノや歌、水泳など）等、自分の持てるものを十分に発揮すること、表現力、人とかかわっていく力が求められます。

日ごろから、学習はもちろんのこと、新聞を読んだり、読書したり、子どもにかかわる活動に参加したりすることが自分のスキルアップにつながるのではないのでしょうか。学力もそうですが、幾度もの面接があり、人間重視の選考が続いています。

私は、大阪市立の小学校に勤めています。毎年、武庫川女子大学、大阪教育大学、大阪成蹊大学などの学生さんが教育実習に来ます。幼、保、小、中、高の免許状が取れると聞いています。また、授業の一環としてボランティア活動で来る学生さんもいます。現場に入り経験することで、採用後の仕事に役立つことと思います。

Q2：給料はどれくらいですか。

A2：公立の小学校の先生は公務員です。地方公務員の給料表の仕組みに基づいて支給されます。初任給は、大卒の小学校教諭で、20万～22万といわれています。しかし、この額をそのままもらえるわけではありません。税金や健康保険料、年金料等が引かれます。年齢に応じて上がっていきます。

Q3：小学校で、やり甲斐や楽しいことはどんなことですか。

A3：1年生から6年生までの発育、発達は大きいです。その成長を見守ることは大きな喜びがあります。日々時間をかけて組み立てた授業で子ども達が興味深く勉強し、力がついていく姿を見たり、友達とのかかわりの中でお互いを分かり合い、相手を思う気持ちが育っていく姿を見たりした時は、感動します。

Q4：子どもとのコミュニケーションをとるにはどうしたらいいですか。小学校では、一人ひとりにまんべんなく対応するにはどのような工夫が必要ですか。

A4：一人一人をよく観察することを心がけています。朝の挨拶の時から、顔色、様子を見て体調はどうか、心の落ち着きはどうかを察知し、一日元気で過ごせるように気を配ります。外遊びを一緒にする。1日1回良いことを見つけて声をかける。いけないことをしたときはしっかり叱る。帰りはハイタッチをする。などまだまだたくさんあります。

Q5：小学校で辛いと感じることは何ですか。休みはありますか。

A5：勉強を教えるだけでなく、事務的な仕事もたくさんあります。パソコンに向かう時間も短くありません。また、校務分掌と言って、校内の係をいくつも受け持っています。生活科のお世話役で必要なものを購入して、健康教育の仕事で年間計画を作成したり、新1年生の健康診断をしたり、委員会の指導をしたり...、辛いというより、時間を作り出す苦労があります。勤務時間は朝8:30から夕方5:00ですが、それでは時間が足りず10時間から11時間は働いています。休みは、公務員なので基本土日祝はお休みです。大阪市は、学期に2回土曜日学校があります。代休は長期休み（夏休みなど）に取ります。夏休みも、日直やブルー当番、研修会への参加などで出勤します。お盆前後に10日ほど普段取れない休みをまとめて取ります。年間20日ほどの有給休暇があります。

Q6：教員試験の難易度を教えてください。小中高のどれが一番なりやすいですか。

A6：小学校教員採用試験の受験者数は、近年増加の傾向にありますが、採用者数も増加しているため、採用倍率はあまり変化がありません。採用倍率は4.5倍は決して低い倍率ではありませんが、中学校の7.5倍、高校の7.7倍と比べると、教員職の中では合格しやすいといえるかもしれません。

Q7：頭が悪くてもなれますか。

A7：頭が悪いかどうかではなく、なりたいたくなくないか、やるかやらないかでしょうか。免許状を取得し、教員採用試験に耐え得る学力を身に付けておくことが大切です。しかし、中には試験に合格しなくても、講師登録をして、先生の仕事を続け、何度も採用試験にチャレンジする方も多くいらっしゃいます。

Q8：教えるときに最も気にするのは何ですか。授業の注意点、工夫点を教えてください。

A8：授業は45分です。この短い間に、気づく・みとおす・考える・まとめるなどの活動が展開されていきます。興味関心を持たせることが一番大切ですから一番最初の「気づく」部分を大切にしています。

Q9：小学校では、1日にどれくらいのペースで授業を進めますか。

A9：教科書に沿って学習します。教科書用指導書があり、1時間に進むところは学年に応じて決まっていますが、子供たちの様子を見ながら無理なく進めています。

Q10：楽しいですか。しんどいですか。毎日何時に寝ますか。子どもたちに教育するのはたいへんですか。

A10：毎日子供たちと一緒に泣いたり笑ったり、悩んだり。その学年年りの楽しさがあります。家族の世話があるので12時ごろ寝ます。若い先生たちは、持ち帰った仕事や明日の授業の準備でやはり寝るのは遅いようです。学級、学校では毎日いろいろなことが起こります。子どもだけではなく、保護者や地域の方とのかかわりもすごく大切なことです。うまくいかないこともたくさんあります。しかし、自分一人で仕事をしているわけではありません。校長先生、教頭先生、学年主任の先生、同僚の先生、職員の方と組織で動いています。何か問題が起きたときはすぐに報告、連絡、相談してみんなで解決していきます。学校の仕事は協力することが大切です。

<参照>「文部科学省ホームページ」「小学校教師になるには-Career Garden」「中学校教師になるには-Career Garden」（以上です。）